

調査解析3

化学物質の影響把握と総量リスク評価手法の検討

琵琶湖流域において不足する未規制化学物質の有害性等に関する情報を得るため、類縁の化学物質にかかる一斉機器分析法を確立し、分析の効率化を図るとともに、同手法を用いたモニタリングによるリスク評価を行います。また、個別の化学物質にかかる機器分析では難しい化学物質総量としてのリスク評価を行うため、生物を用いた生態影響試験法を確立します。

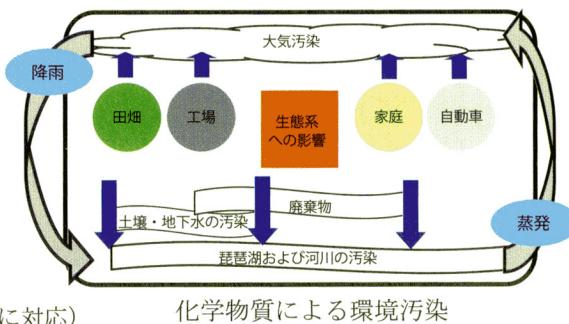
<サブテーマ>

- ・未規制化学物質の一斉分析手法の確立とリスク評価
- ・総量リスク評価のための生態影響試験等の手法確立

【現状における課題】

- 増え続ける環境基準・要監視項目への対応
- 不足する未規制化学物質の情報
- 個別の化学物質濃度では捉えられない影響評価
- 国が普及を進める WET法への対応

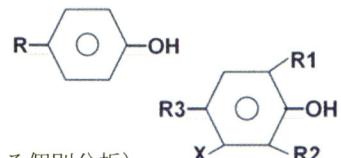
※WET法…全排水毒性試験法
(生態影響試験法の一種：未規制化学物質や物質間の複合影響に対応)



【課題解決に向けた対応】

- ① 未規制化学物質の一斉分析手法の確立とリスク評価
- LC/MS/MSを用いた一斉機器分析法の確立
 - 同手法を用いたモニタリングによるリスク評価

個別化学物質のリスク評価



(機器による個別分析)

- ② 総量リスク評価のための生態影響試験等の手法確立

- ヒメダカによる急性毒性試験法の手法確立
- 甲殻類・魚類によるWET法の手法確立

化学物質総量としてのリスク評価



(生態影響試験)

- 一斉機器分析法の確立による分析の効率化

- 生態影響試験法の確立による多角的なりスク評価とリスク回避のための速やかな対応